

みるこす

日本のイスラエル報道に対する10の疑問◎長尾賢



パレスチナ人同士の闘い◎滝川義人



これらすべてのことを
どうか守ってください 私に
私の最善の神よ

〈アル・コル・エレ〉



ミルトスはイスラエルに育つ低木。常緑でその葉は芳香を放ち不死と成功の象徴とされた。(イザヤ41:19)

■ 中東・イスラエル情報

■ 特別寄稿 ■

日本のイスラエル報道に対する 10 の疑問 —— 長尾 賢 7

■ イスラエル並びにユダヤ人に関するノート ■

アサド政権崩壊がもたらす国際情勢の変化 —— 佐藤 優 16

■ 日本・イスラエル コラボレーションの道 ■

スタートアップ企業の成長を支えるエコシステム —— 新井 均 24

■ イスラエル 多角多論 ■

シリア・アサド政権の崩壊 —— 齋藤真言 36

■ 知っておきたい中東・イスラム ■

UNRWA とはどういう組織か —— 光永光翼 44

■ 日本の非常識からみた中東の非常識 ■

パレスチナ人同士の闘い —— 滝川義人 52

● 聖書・歴史

● サムエル記講話 ●

サウル家とダビデ家の王位争い —— ラビ・ベニー・ラウ 56

● 目からウロコの新約聖書 ●

「家の集会」とは(下) —— 藤原豊樹 70

▲ エッセイ

▲ 表紙によせて ▲

これらすべてのことを —— マカベアリス 4

▲ 聖書の世界 エッセイ ▲

はじまりの日 —— 池田 裕 63

表紙：「アル・コル・エレ」【刺しゅう・マカベアリス】

シネマレビュー 32

ブックレビュー 78

声のひろば 80

編集後記 82

表紙によせて

これらすべてのことを

אל כול אל

アル・コル・エレ

マカベアリス

蜜を そして棘とげを

甘いことを そして苦いことを

赤ん坊の私たちの娘を

守り給え 私の最善の神よ

燃える炎を 澄んだ水を

遠くから家路につく人を

これらすべてのことを

これらすべてのことを

どうか守ってください 私に

私の最善の神よ

蜜を そして棘を

甘いことを そして苦いことを

植えられたものを どうか

引き抜かないでください

その希望を忘れないでください

私を帰してください

そうすれば私は帰ります

良い地に向かって

これは、イスラエルの国民的

音楽家、ナオミ・シエメル（1

930〜2004）が1980年

に作詞作曲した「アル・コル・

エレ」の歌詞である。

ナオミは1930年、ガリラ

ヤ湖畔にあるキブツ・キネレッ

トに生まれた。イスラエル建国

前の開拓時代である。ナオミが

6歳になる頃、母リフカがアメ

リカからの寄付を取りつけ、キ

ブツの子どもたちにピアノがプ

レゼントされた。ナオミは母か

日本のイスラエル報道 に対する10の疑問

長尾 賢

【編集部】 外交・国際問題についての研究・提言等を行なうシンクタンク、公益財団法人「日本国際フォーラム」で特別研究委員を務める長尾賢氏が、昨年11月26日付で発表された論文を抜粋して紹介します。

＊

2023年10月7日のハマスによるテロ攻撃（以降、10・7）以降、日本メディアの中東報道は極めて問題の多い報道だったと言える。

2024年11月にイスラエルを実際に訪問し、私が問題と感じてきたことについて現地で情報を得ること

ができたので、それをもとに日本の中東報道がいかに問題であり、どう是正するべきか、10の項目に分けて問題を指摘する。

① ハマスが行なったことの残虐性を報じていない

最初に気になるのは、10・7のハマスによるテロ攻撃について、日本のメディアがきちんと報じなかったことだ。日本の多くの報道は、まるでイスラエルの音楽祭だけが襲撃され、1200人を殺害し250名を誘拐したかのような報じ方だった。

これは事実と異なる。

この日、ハマスはガザ地区を囲う壁を破壊し、数千人の戦闘員が越境して襲撃を開始し、ちょうど開催されていた音楽祭だけでなく、周辺の町や村々（キブツ）、道路を走る車など、ありとあらゆるものを襲撃した。ここでは、残虐行為で知られたテロ組織ISによく似たような、異常なレベルの残虐行為があった。テロリストたちは自らその残虐行為を映像に撮り、自慢するかのようにつトにアップしたため、当時多くの映像を見られる状態になっていた。

アサド政権崩壊がもたらす

国際情勢の変化

佐藤 優



(撮影：森清)

アサド政権突然の崩壊

乙君、去年（2024年）12月8日、シリアの反体制派が首都ダマスカスに進攻し、「ダマスカスが解放された」と宣言しました。アサド大統領は辞任し、国外に逃亡しました。

〈反体制派は「父の故ハフェズ・アサド元大統領の代からの」50年間の圧政を経て、暗黒時代の終わり

と、シリアの新しい時代の始まりをここに宣言する」と表明。「新しいシリアでは、すべての人々と平和に共存し、正義が行き渡ると主張した。政権側からの目立った抵抗がないまま、首都の制圧を進めているとみられる。〉

（24年12月8日「朝日新聞デジタル」）

国外に逃亡したアサド氏が向かった先はロシアの首都モスクワで

した。

〈ロシア国営タス通信は8日、ロシア大統領府の情報筋の話として、シリア大統領を辞任したアサド氏がモスクワに到着し、亡命を認められたと報道した。情報筋は「アサド氏と家族がモスクワに到着した。ロシアは人道的に判断し、亡命を認めた」と述べたという。〉（12月9日「朝日新聞デジタル」）

スタートアップ企業の

成長を支えるエコシステム

新井 均

1年以上続くハマス・イスラエル戦争や、本誌が読者のもとに届く頃には3年となるロシアのウクライナ侵略の状況を見るにつけ、どちらの陣営にせよ、世界の様々な支援の声や（時には無責任な）批判の声が渦巻く中で、当事者が自らの信念を貫き続けることの厳しさを思わざるを得ない。そこに関わる人々の意志の力が基本であることは無論だが、その意志も人々の依って立つ経済基盤がしっかりとしていなければすぐに揺ら

いでしまふだろう。世界の主要国から経済制裁を受けながらもロシアが侵略戦争を継続できるのは、豊かな天然ガスを産出する資源国であることが大きいだろうが、その一方で、世界の食料庫と言われるほど穀物生産が主要産業であるウクライナでは戦争による農地の被害も甚大であり、西側諸国の軍事・経済支援がなければロシアに対峙する意志も揺らいでしまうだろう。

平時でもUNRWA（国連パレスチ

ナ難民救済事業機関）の支援がなければ人々が生活することが困難なガザ地区を支配するハマスが、なぜ総延長400km以上の地下トンネルを建設したり、テロ攻撃や戦争を1年以上継続できるのか。このこと自体が不可思議だが、イランやカタールによる軍事支援だけではなく、本来パレスチナ市民の生活を支援すべきUNRWA予算の一部が、ハマスに窃取せつしゅされて軍備に転用されているという半ば公然の疑惑もある。

シリア・アサド政権の崩壊

齋藤真言

わずか11日間で陥落

昨年末、今次の戦争の影響で長らく行けなかったイスラエル北部を訪れた。ガリラヤ湖の北を回ってゴラン高原へと登る道中、ごつごつとした岩石の間から緑が顔をのぞかせるが、そこには破壊された建物が点在している。これらは1967年の六日戦争（第三次中東戦争）で、イスラエル国防軍（IDF）によって破壊されたシリア軍基地跡だ。一見する

と自然に恵まれた穏やかなゴラン高原だが、戦争の爪痕が至る所に残され、今もIDFの軍事基地が各所に点在している。特に戦車部隊を中心とした機甲師団の存在は、この地の背後に潜む緊張を否応なしに感じさせる。ゴラン高原の向こうに広がるのは、今歴史的な事変が起きているシリアである。

2024年12月8日、シリアの反乱軍がダマスカスを制圧し、アサド家による54年間の独裁支配が終焉を

迎えた。反乱軍は「ダマスカスを解放し、すべての囚人を解放した」と声明を発表し、シリア暫定政府の樹立を宣言。アサド大統領はロシアに亡命した。

2024年のイスラエルは、前年から続くガザ地区のハマスとの戦闘に加え、北部から執拗に攻撃するレバノンのヒズボラ、さらに2000km離れたイエメンのフーシ派やイランからの弾道ミサイル・自爆ドローンなど、多方面からの攻撃に晒され続けた1年だった。

昨年9月、最高指導者ハッサン・ナスララが殺害されてヒズボラは壊滅状態に陥った。11月27日、アメリカなどの仲介によりヒズボラとイスラエルは停戦協定を締結。これにより60日間の戦闘停止となった。約1年2カ月ぶりに、イスラエル北部にひとときの静寂が戻った。アサド政

UNRWAとはどういう組織か

光永光翼

延期された日本事務所

この度の戦争の発端となったのは2023年10月7日のハマスによる越境テロ（以降、10・7）だが、その5日前の10月2日に日本で重要な発表があったことはご存知だろうか。国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）のラザリーニ事務局長が、日本・UNRWAパートナーシップ70周年で来日し、日本記者クラブで会見した。

財政危機が深刻化している現状を説明した上で、「近い将来、UNRWAの日本事務所を開く」との方針を発表したのである。

日本は1953年以来の重要な支援国であることから、アジア初の拠点として日本での事務所設置を決めたという。UNRWAはすでにアメリカとスペインに拠点を置いているが、「民間の難民支援への意識向上を促す」と強調し、2024年の早期に開設を目指す

と述べた。しかしこの計画は、数日後に起きたテロとその後続く戦争により延期となった。

もしハマスが10・7を実行していなかったら、東京のどこかでUNRWA日本事務所の開所式が盛大に行なわれていたに違いない。しかし、UNRWAの存在意義などを踏まえて日本の治安に及ぼす影響を考えたときに、これが果たして良いことなのかどうか甚だ疑問である。日本人にとって国連は

日本の非常識からみた中東の非常識

パレスチナ人同士の違い

——暗躍するイラン・ヨルダンもターゲット

滝川義人

○クリスマスデモ

ちょうどクリスマスシーズンに時を合わせて、東京でデモがあった。"ストップ・ザ・ジェノサイド"のプラカードを掲げた人たち。「西側のキリスト教社会は、嬰兒キリストの誕生を祝いながら、その一方でガ

ザの子供たちの殺戮、皆殺しを支持している」と主張していた。

しかしこの人たちは、まさにその時にパレスチナ人同士が殺し合っていることに言及しない。反イスラエルで凝り固まって、周囲を見渡せないで、恐らくその事実を知らないのである。

○掃討戦を開始したPAの事情

2024年12月、正確に言えば12月14日、パレスチナ自治政府（PA）が、「郷土防衛作戦」の発動を発表した。この場合の「郷土」とはウエストバンク北部域である。相手は、ジェニン難民キャンプを拠点とするジェニン旅団である。主にパレスチナ・イスラム聖戦（PIJ）のメンバーで構成される武装組織で、本誌23年2月号で触れたように、これまで小競合いが何度もあった。

今回作戦の契機になったのが、24年12月5日の事件である。この武装組織のメンバーたちがPA所属の自動車を何台も盗んで、パレスチナ・イスラム聖戦、ハマス、そしてPAのアルアクサ殉教旅団の旗を立てて乗りまわし、PAの事務所を発砲したのである（組織はいくつかの武装集団

サムエル記講話

《サムエル記下3章》

サウル家とダビデ家の 王位争い

ベニー・ラウ

(毛利みつる 訳)



הרב בני לאו

●ダビデの次男キルアブとは

前回はヨアブ率いるダビデ軍とアブネル率いるサウル軍の壮絶な戦いで、アブネル側に360人、ヨアブ側に20人の戦死者が出たところまで学びました。アブネル軍は一晩中アラバを歩いてヨルダン川を渡り、マハナイムに帰りました。一方ヨアブたちも夜通し歩いてヘブロンに帰りましたが、その時に彼らに朝日が昇ってきました。

本章ではサウル家とダビデ家の王位争いについて述べられています。

サウル家とダビデ家の戦いは長引いた。ダビデは強くなっていったがサウル家は弱くなっていった。(1節)

次の2〜4節に突然、ヘブロンで生まれたダビデの息子たちについて言及されます。列記された息子は6人。タマルの事件を起こしたアムノン、ダビデに反乱したアブサロム、王位を狙ったアドニヤなど、よく知られる人物が並びます。けれども次男のキルアブについては、彼の母がカルメル人ナバルの妻であったこと以外、私たちは何も知りません。

キルアブの母アビゲイルは元々カルメル人ナバルの妻でした。ナバルがダビデの丁重な頼みを傲慢な態度で一蹴したために、ダビデはカルメルの男たちもろとも首長ナバルを剣にかけて殺そうとしました。その時アビゲイルが機転を利かせてダビデに自制を促し、流血の罪から救いました(サムエル上25章)。荒々しく血にまみれたダビデを、密かに王の器にしたのは彼女でした。

そのアビゲイルが生んだダビデの2番目の息子キルアブが登場するのは、この箇所だけです。彼はいった

はじまりの日

池田 裕

● 腰おびに帯おびして

もしトラ。もしトランプ氏がアメリカ大統領選挙に勝利し再選ということになったら、世界は、そして自分たちの国はどうなるか。トランプ氏は米国第一主義を掲げ、海外からの輸入品に高い関税をかけ、米国はNATO（北大西洋条約機構）から脱退するから西ヨーロッパ諸国はロシアからの攻撃に対して自身を自らの手で守れと言ひ、日米同盟に関しても、日本は自国の防衛に関し米国の助けを真剣に求めているのなら、在日米軍の経費を増やし、自衛隊の装備にもっと力を入れよと迫る。日本

をはじめ、多くの国が「もしトラ」恐怖症に陥り、早い段階から主要政治家や財界人に「トランプ参り」をさせる国が少なくなかった。

最近読売新聞社と米ギャラップ社が行なった日米共同世論調査では、「トランプ氏には、期待のほうが多いですか、それとも不安のほうが多いですか」との質問に対し、「期待のほうが多い」と答えたのは米国55%、日本27%。「不安のほうが多い」は米国44%に対し、日本63%であった。また「トランプ新政権で、今後日本とアメリカの関係は良くなっていくと思いますか、悪くなっていくと思いますか」という質問に対しては、「非常に良くなっていく」が米国22%、日本1%、「良くな

○ ギャラリー「イスラエルの風」が贈る今月の一枚 ○



カペナウム 撮影・平岡真一郎

イエス・キリストがガリラヤ伝道の拠点としたのがカペナウム。周辺を散策していると、菜の花の黄色いカーペットが眼前に現れた。ギリシア正教の赤いドーム屋根と相まって青い空、青い湖が映えている。

★手漉き和紙にプリントした、絵画のような独特な風合いをもつ作品です★

サイズ

41×32cm ⇨33,000円

制作元：ギャラリー「イスラエルの風」
〒183-0042 東京都府中市武蔵台 2-18-24

お問合せは
ミルトスへ

聖書の言葉・イスラエルの公用語

ヘブライ語をはじめませんか？

ミルトスの
新刊



■ 初心者向き

まずは文字の読み書きから。ヘブライ文字の書き方・読み方などを1文字1ページで詳しく解説します。少し進んで、よく使われるフレーズを会話形式で学びます。

■ 親しみやすい工夫

ヘブライ語に読み仮名が付いています。また、たくさんのイラストと楽しいストーリーに沿って、自然と身についていきます。

■ 音声データ付き

本書に収録されている単語や文例の発音を無料でダウンロードできます。イスラエル在住のヘブライ語ネイティブ・スピーカーによる本物の発音で学ぶことができます。

本書は『はじめてのヘブライ語』の内容を改訂し、イラストを一新した改訂版です

改訂版

はじめてのヘブライ語

佐藤 淳一〔著〕

田中マコト〔イラスト〕

3月発刊予定

2,750円(税込) A5判 並製 208頁